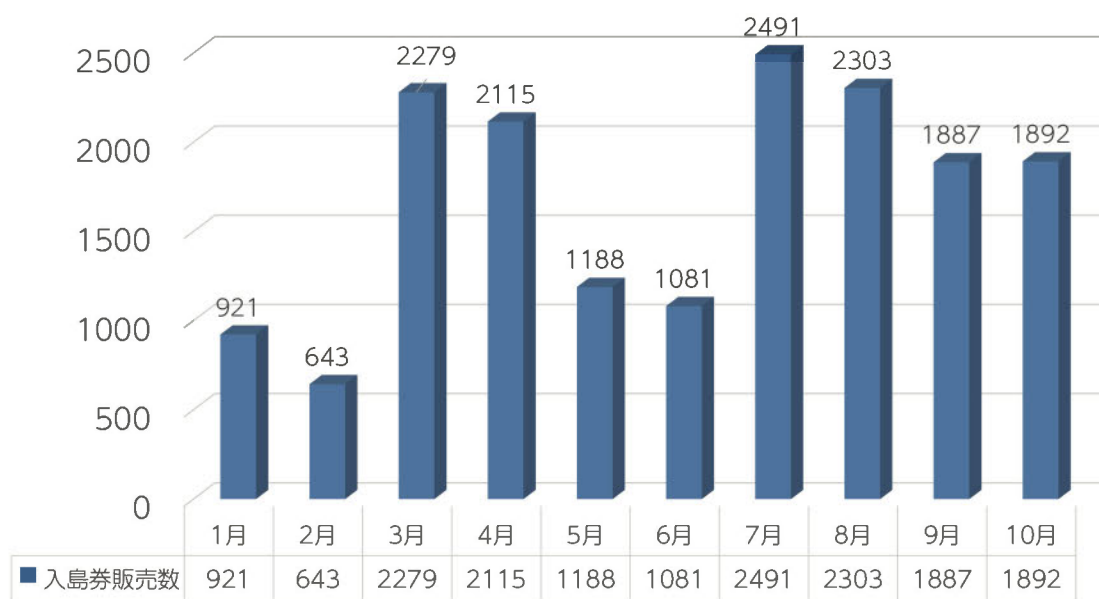


07 2021年入島料収受実績

2021年1月～の入島料収受実績は下記のようになります。入域者数は7月以降徐々に回復傾向にありますが依然として大変厳しい収受実績となっております。

少しずつですが島内事業所での入島券販売の輪が広がりつつあります。引き続きご協力をよろしくお願いします。

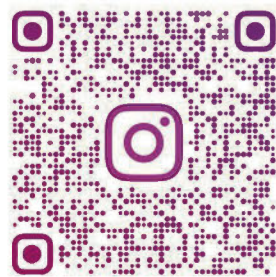
入島券販売数



お知らせ

かりゆし館のホワイトボードには竹富島で見られる貴重な動物と見つけやすいスポットを記した「動物を見に竹富島を歩こう」MAPを掲示しています。また財団Instagramでは日々の活動をUPしています。お時間のある時にご覧いただくと嬉しいです。

taketomijima_zaidan



一般財団法人
竹富島地域自然資産財団

〒907-1101
沖縄県八重山郡竹富町字竹富 207-1
TEL:0980-85-2800 FAX:0980-85-2801
MAIL:info@taketomijima.okinawa

竹富島地域自然資産財団 季刊誌

てーどろん JOURNAL

ジャーナル

2021.Nov. Vol.09.



© Maehara Motoo

竹富島では、そんなに遠くない昔。
あまり便利とは言えないけれど
自然体で暮らせる心豊かな時代がありました。

私たちは入島料で、島がいつの間にか失ってしまったもの、
忘れてしまったものを取り戻すべく活動を進めてまいります。

01 海洋ゴミステーション設置

竹富島の東にあるアイヤル浜に「海洋ゴミステーション」を設置しました。これはビーチを訪れ、海洋漂着物を拾った人に利用していただくための漂着物専用のゴミ箱です。これまで目についても、どこに捨てればよいかわからず、拾われなかった漂着ゴミはかなりあると思われます。島の子供たちと一緒に制作したゴミステーションは、貨物輸送などで使われなくなったプラスチック製パレットが材料で、手書きのメッセージボードで「一般ゴミを捨てない」ことや「ペットボトルは中身を捨ててキャップを外す」ことをお願いしています。島の子供たちは「海がもっときれいになる」と笑顔で、一生懸命ステーション作りに励んでくれました。ちなみにゴミステーションの維持管理には入島料が充てられ、回収されたペットボトルやプラスチックは再利用されます。



02 市民憲章運動第55回全国大会

10月23日に石垣市民会館大ホールにて開催された「市民憲章運動推進 第55回全国大会 石垣市大会」（主催：全国市民憲章運動連絡協議会）のシンポジウムに水野理事が登壇し「竹富島憲章をまもること」をテーマに活動発表を行ないました。この大会は全国で市民憲章の基づいたまちづくり運動に取り組む団体の活動報告の場となっており、発表の様子はLIVE配信され、竹富島が歩んできた歴史や竹富島憲章の内容、入島料徴収に至る経緯などを全国に発信しました。大会は下記のURLよりアーカイブにてご覧いただけます。
https://youtu.be/y_4KkI1WGC1



03 子どもたちと土づくり



旧與那國家住宅の瓦ぶき屋根の修復に用いられる土づくりを、竹富小中学校の生徒さんと一緒に行いました。2班に分かれて瓦ぶき屋根のレクチャーと土踏みを交互に行い、最初は戸惑いながら足を入れていましたが、次第に楽しそうに土を踏み込んでいました。

04 クマミの収穫



クマミ（緑豆）の摘み取りを実施しました。サヤが真っ黒になり弾ける寸前のものから収穫していきます。なかには白いサヤのものもありますが、そんな緑豆を「イシクマミ」と呼ぶそうで、煮込んでも石のように硬いからそう名付けられたのだとか。

05 アジラの復活とウッドチップ



アイヤル道には、アジラ（石垣）が数百mにわたって築かれています。しかしギンネムを中心とする外来種に覆われて見えなくなっており、その外来種駆除とウッドチップパーを利用した枝木の粉碎を行ないました。粉碎されたウッドチップは、肥料として使います。

06 粟の脱穀



収穫し天日干ししていた粟穂から粟の実を取り外す脱穀を星のや竹富島のスタッフも交えて2日間かけて行いました。2本の木の棒を接続して回転させて叩くという、昔ながらの手法にて実施。叩いたあとは、ザルに移して風の力を利用して粟の実を取り出します。